

JUAS・トランスフォーメーション研究会

2024年度



一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会
Japan Users Association of Information Systems

Copyright (C) 2025 JUAS All rights reserved

本日のAGENDA

- ① X研究会とは
- ② 2024年度各回の様子
- ③ 2025年度予定の紹介

トランスフォーメーション研究会とは

研究テーマ:

「トランスフォーメーションすべきものは何か」を見つけ出し、どのような変化が起きるのかを探る。

部会長 水谷 世希 氏(株式会社日立コンサルティング)

副部会長 菅原 秀和 氏(住友ファーマ株式会社)

副部会長 宮脇 智子 氏(日本航空株式会社)

(1) 研究会概要・方針

多くのDXプロジェクトが思ったような効果が得られない原因の一つに、DXのDの方にばかり意識が向いていることが挙げられます。大切なのはXの方であり、「何をどのようにトランスフォームしていくことが必要なのか」について考えることではないでしょうか。

様々なジャンルのトランスフォーメーションについて、ゲストスピーカーのお話をヒントにメンバーとのグループディスカッションを行うことでこれからの社会の変化の兆しに気づきを得ることを目指します。

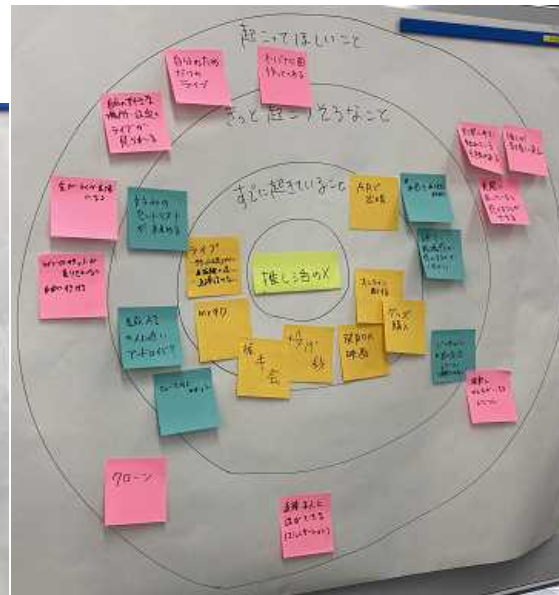
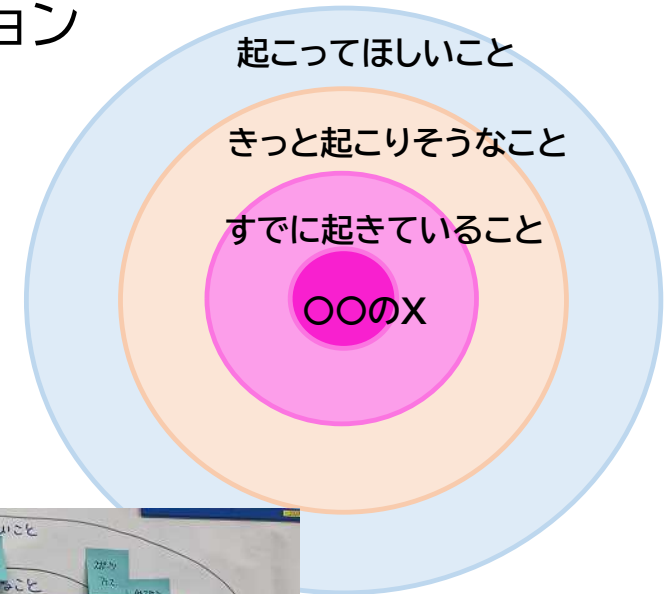
開催日程(2024年度・会場またはオンライン開催)

	日時	開催方法	テーマ
第1回	2024年6月13日(木) 15:00-18:00	会場(JUAS会議室) またはオンライン	自己紹介・今年度の進め方・グループディスカッション
第2回	2024年8月29日(木) 15:00-18:00	会場またはオンライン	「日清食品グループに見る生成AI活用の現在と未来」 成田 敏博 氏 (日清食品ホールディングス株式会社 執行役員 CIO)
第3回	2024年10月3日(木) 15:00-18:00	オンライン	研究会メンバーの取組み等発表
第4回	2024年12月12日(木) 15:00-18:00	会場(JUAS会議室) またはオンライン	アカデミー「IT部門としてDXにどう取り組むか」 河瀬 誠 氏 (立命館大学 経理管理研究科(MBA) 教授 MK&Associates 代表)
第5回	2025年1月15日(水) 15:00-18:00	会場(JUAS会議室) またはオンライン	アカデミー 「エフェクチュエーションで未来を創る—挑戦と実践の軌跡」 谷口 千鶴 氏 (株式会社スナックレモネード 代表取締役社長)
第6回	2025年3月4日(火) 15:00-18:00	会場(JUAS会議室) またはオンライン	アカデミー 「未来を創るトランスフォーメーションの原点」 竹林 一 氏 (京都大学経営管理大学院 客員教授)

第1回 キックオフ・意見交換

トランスフォーメーションについて、グループディスカッション

「〇〇のX」を各グループで決め、それに関して、
「すでに起きていること」「きっと起こりそうなこと」
「起こってほしいこと」を意見交換



第2回 日清食品グループに見る生成AI活用の現在と未来



日清食品全社に向けて生成AI活用を推進してきたこれまでのステップや、今後更なる活用拡充をしたケースや、それによる効果についてご紹介いただいた。講演後には、社内推進のためのヒントなど、研究会メンバーからの様々な疑問にご意見をいただいた。

成田 敏博 氏

日清食品ホールディングス株式会社 執行役員・CIO

1999年、新卒でアクセンチュアに入社。公共サービス本部にて業務プロセス改革、基幹業務システム構築などに従事。2012年、ディー・エヌ・エー入社。グローバル基幹業務システム構築プロジェクトに参画後、IT戦略部長として全社システム企画・構築・運用全般を統括。その後、メルカリ IT戦略室長を経て、2019年12月に日清食品ホールディングスに入社。2022年4月より現職。



第2回・研究会メンバーの感想、得たものなど（一部抜粋）

- 経営トップのイノベーションへの強い関心及びそれを達成するためのスピード感が会社を動かしているんだと強く感じました。
- 「敵(リスク)を味方につけるところから始めた」「メッセージをシンプルにすることで伝わりやすくした」「やるにはどうするかから考える」という3点が非常に印象的
- スモールサクセス・クイックウィン、成功事例を共有で皆さんのやる気向上、素晴らしいです！
- デジタル技術導入がゴールではなく組織に浸透させることが大事
- マイセルフ・シンドロームの推進
- 今回は「AIをビジネスに導入すること」と言うよりは、「それを契機に仕事のやり方を、関係者の自分ごと感を高めながら見直す」プロセスやスピード感がとても参考になった。
- 社内への周知ではなく、部署に入り込み一緒にプロンプトを作成するまでしないと生成AIも普及しないということが分かり、とても学びになる事例紹介だった。
- 新しいことを始めて定着させるためには、当事者に自分事と認識して貰い、自分の手で実行してもらう必要があると実感しました。
- トランスフォーメーションに向けて、やれない理由を考えるのではなく、やれる方法を考える。
- 推進の意思を持って、あらゆる手段を尽くすことの大切さを学びました。
- スモールサクセス、クイックWIN。AIの取組み以上に、仕事のヒントをたくさんもらえました。
- 改革、変化を起こすには、トップダウンとボトムアップの両軸が必要。
- インナーブランディングの重要性と携わる人の熱量！
- 人を動かすというのは、多方向から働きかけることであると学びました。
- ”ツール導入はスモールサクセスがはじまりでいい。・横展開がいずれ前者となるようなロードマップを作る・新ツール イイネ！を広報していく(社内・社外)”
- 生成AIは方法で、重要なのは組織力だと思った。
- イノベーションの1例目を作り上げる力と、その成功体験をいかに連鎖させていくかの歯車づくり。
- 新規ツールを導入後、使いこなせる一部の人間のノウハウを集約、テンプレート化することで、誰しもの使えるツールとする、すなわちトランスフォーメーションを成し遂げていた。

第3回 研究会メンバーの取り組み紹介

- ・「明治安田の健康活動プロジェクト」
明治安田システム・テクノロジー株式会社 太田 健太郎さん
- ・「生成AIの取り組みについて」
株式会社中電シーティーアイ 國田 隆さん
- ・「社内DX推進事例からボトムアップ型のトランスフォームを考える」
株式会社東レシステムセンター 渡辺 佳代子さん

研究会メンバーから3名の方に、「何をどのようにトランスフォームしていくことが必要」と考え、取り組んできたかを発表していただいた。

参加者は、それぞれの発表を聞きながら、疑問点や参考にしたい点などをオンラインホワイトボードを利用して共有した。

第3回・研究会メンバーの感想、得たものなど（一部抜粋）

- 「困っていないから今のままでいい」「変えるのが面倒だ」といった現状維持バイアスの克服は、トランスフォーメーションの達成のために非常に重要である。
- 変革するには何かを否定するところから始まる、だから何かしらの反発が発生するという話があり、だからこそ見える化や細分化したり共通認識することの大切さを感じました。
- トランスフォーメーションを興すためには、まず自らが抱えているが認識していないバイアスを顕在化する必要がある
- 各社地道に変革を志して活動していることに勇気をもらうとともに取り入れたい気づきを多く得られた(* 社員全員が動きやすいようにベテランを上手く使う / 現状維持バイアスを認識してマインドが変わるまで活動を継続する / 変革に進む前に打破すべき現状のバイアスを明確にする / プロセスを本気で細分化し見える化すると解決策が見えてくる)
- 3つのご講演から、現状整理がトランスフォーメーションの肝だと感じたが、現状整理しすぎると不満ばかりが出て、小さい改善ばかりにつながる可能性があるので、バランスを考えないとトランスフォーメーションに繋がらないとも感じた。
- ”今回は発表者としても参加させていただきました。自分が行った取り組みを社外の方に聞いていただける機会はほとんどなく、客観的に伝えることの難しさをあらためて感じました。よい機会をいただきありがとうございました！また、研究会参加者の会社における取り組みは実際の生の声は共感できる部分も多かったです。”
- 現状維持バイアスを廃し、自身が対象領域における変革のラストマンであるという強い思いが変革を起こすと痛感しました。
- 変革は 変わる勇気が 第一歩 マインド変えて 新たな道へ
- バイアスをなくすことと、現状の細分化は重要である
- 各工程の工数を見える化して削減し、経営層に効果を訴求することが大切
- 現状維持バイアスを持って見えないタスクを可視化し、公私ともに効率化のサイクルをまわしていきたいと思いました。
- 各メンバーがそれぞれ社内で試行錯誤されており、とても刺激を受けました！
- 現状維持バイアスをなくして、変化することを意識する
- 業務を細分化してトランスフォームを見つける
- 有識者のお話も貴重ですが、メンバー同士で会話/ディスカッションも同じぐらい貴重でした
- 神は細部に宿るとはよく言ったもので、現行プロセスを細分化して共通認識を持つことが、業務改革の第一歩であると気づきました。

第4回 「IT部門としてDXにどう取り組むか」

DXとは、カイゼンではなく、デジタルによる「変革」。することは、業務プロセスの効率化ではなく、業務の「抹消」。

目指すのは、生産性の向上ではなく、産業革命である。経営陣はDXをどう捉えなければならないか、またIT部門として経営レベルからのDX推進をどう提言するかについて、お話いただいた。

また、講演後には、研究会メンバーのみで河瀬様を囲んで、疑問や自身が抱えている課題なども共有し、意見交換した。



河瀬 誠 氏

立命館大学 経営管理研究科 教授

東京大学工学部卒業、王子製紙に入社

ボストン大学大学院にて理学修士と経営学修士を取得

A.T.カーニー、ソフトバンク、ICMGを経て、現在MK&Associates代表(兼務)

第4回・研究会メンバーの感想、得たものなど（一部抜粋）

- “経営者がいかに「変革」に参画するかがポイントであることを理解できた。自分たちが行ってきたことはDXではなく、ほとんどが「デジタル化」であると認識した”
- 根本からは難しいが、できることから自分の変革は進められる
- DXを推進するにはIT部門主導ではなく、経営層が進めないとならないということが一番しっくりしました
- 右手が主とはいっても、左手を少しでも動かしていないと、左手の動かし方を忘れてしまいそうになる（常に動かし続けて、いざというときに使えることが大事なのかなと思いました）
- ”会社としてDX導入やAI導入は難しいと思いますが、個人の左手を得るために、自身で勉強してみたいと思いました。生成AIが主流となる未来は近いと感じました”
- リーダーを目指したいと思いました
- DXとは業務効率化ではなく作業をなくすこと。改善ではなく改革である。
- 経営者にITのことをわかってもらうと同時に、IT技術者も経営のことをわかっておく必要があるんだと感じました
- 妄想する左利きのリーダーが必要
- いつもの業務を「右手」とするなら、JUASの活動は「左手」
- ”「DX」を取り入れるべきか、取り入れないべきか、よく考えた方がよいと思ったリーダーとマネージャーの違いが企業で異なることが分かった”
- 制約の中で探索を進め、経験を積んでいきたいと思いました
- Xを進めていく中では、スモールサクセスを作って、手柄をあげさせるのも一つの手
- まず妄想→ゴールを決める=ビジョン≠確実な効果を求めるのはNG
- 右利き全振りから左手を使って妄想し、みんながうれしい未来を作れる人になりたいです
- 未来は私の妄想から始まる！！
- DXはボトムアップであればやらないほうがよいといった衝撃の一言が印象的でした。日本の企業の大半は取り組み方が間違っていそうかもしれません。
- デジタルは指数関数で進化し、AIはパソコンのように当たり前になる

第5回 「エフェクチュエーションで未来を創る～挑戦と実践の軌跡」

エフェクチュエーション理論は、手持ちのリソースや人との関係性を活用し、未来を予測せずに自ら創造するアプローチである。企業経営や教育現場にエフェクチュエーションを導入し、組織開発やマーケティングでどのように活用してきたか、具体例を交えて解説していただくとともに、日本で初めて大学においてエフェクチュエーション特化授業を開始した経験や、日常生活での実践方法についての紹介や、リスクを最小限に抑えつつ、自ら未来を創るための考え方と行動指針をお伺いした。講演後には、小グループに分かれてディスカッション、谷口様から疑問点への回答やアドバイスをいただいた。



谷口 千鶴氏

株式会社スナックレモネード 代表取締役社長

1974年生まれ。株式会社スナックレモネード代表取締役社長、岡山理科大学非常勤講師。関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科修了、経営管理修士(専門職)。マーケティング専攻。国内初のエフェクチュエーション専門授業「イノベーション実践」を修了。以後、神戸大学吉田満梨准教授のティーチングアシスタントとしても活動。2024年には、日本で初めて大学院ではなく大学においてエフェクチュエーション特化授業を開始した。エフェクチュエーションを生活や組織開発に活用し、企業経営の分野でも貢献。

第5回・研究会メンバーの感想、得たものなど（一部抜粋）

- ”エフェクチュエーションにおいて、5つの原則があることに気づきました。また、チャレンジ精神を持つようになりました。とても有意義な講演でした。行動には原則や規則があることに気づきました”
- やるか、やるか！（やるか、やらないかではない！）
- 手中の鳥を育てて動き出す
- 自分の手中の鳥をとらえて行動につなげれば、何かが起こる
- 何ごともやるorやる！（orやりたくない？）
- X研究会参加が、私にとっての「手中の鳥」でした！
- 考えられる範囲で動いていこうと思った。ありがた迷惑にならないようにだけ気を付けたい
- 先生のお話を聞いて、エフェクチュエーションの考え方を好きになることがとても重要
- エフェクチュエーションをまずはやってみる！
- ”エフェクチュエーション→やるかやるか許容可能な損失の中でやれることをやる”
- ”面白いことをやる、か、やる！！（やれないと思っけていてもaffordable lossを減らし、許容できれば実行する！）小さなアクション、種をまいておく”
- 行動した時の損失と、行動しなかった時の損失を天秤にかけて行動することが大事だと思いました
- あたりまえのように、やらない選択肢がないことにびっくりしました。前のめりのような感覚でやる気をもらいました。
- ”コーゼーションのプロセスで考えてしまうため、より早く物事を進めるにはエフェのプロセスはとても有効だと感じた。一方で上位者がコーゼーションのプロセスでの成功体験があるためか、エフェのプロセスを実践していく難しさも感じた。自分ができること「小さなことから始める」を意識してできることから実施してみたい。”
- エフェ=わくわく！

第6回 「未来を創るトランスフォーメーションの原点」

イノベーションの仕掛け人として知られている竹林一氏に、「事業の新たな「軸」を見出し、デザインしていくには、何をどうすればよいのか」、「トランスフォーメーションを起こすために不可欠な要素は何か」をお伺いした。

終了後には、研究会メンバーのみでグループディスカッション。気づきやもっと伺いたいこと・疑問点などを整理し、さらに竹林氏にお話しいただいた。

竹林 一 氏

京都大学経営管理大学院 客員教授



“機械に出来ることは機械にまかせ、人間はより創造的な分野での活動を楽しむべきである”との理念に感動して立石電機(現オムロン)に入社。以後新規事業開発、事業構造改革の推進、オムロンソフトウェア代表取締役社長、オムロン直方代表取締役社長、ドコモ・ヘルスケア代表取締役社長、オムロン イノベーション推進本部 インキュベーションセンタ長を経て、現職。現在センシングデータ流通市場(SDTM)の立ち上げなどに取り組んでいる。日本プロジェクトマネジメント協会特別賞受賞、同協会PMマイスター。

その他一般社団法人データ流通推進協議会理事他、政府、経済団体関連各種委員会の諮問委員を務める。著書にモバイルマーケティング進化論、PMO構築事例・実践法、利益創造型プロジェクトへの三段階進化論、たった1人からはじめるイノベーション入門 等がある。

第6回・研究会メンバーの感想、得たものなど（一部抜粋）

- 昔も今も、じつは忍者が大事な役割だということがわかりました！大変興味深いお話ありがとうございました。
- エフェクチュエーションとコーゼーションで失敗を恐れずおもしろいトランスフォーメーションをする！
- これからの時代は「ワクワク！！」『年中夢求』
- 起承転結の人材類系の話、ものの流れの何を変えたいのかを発想の起点にして、おもしろい・ワクワクすることを考えること、は非常に参考になった
- 転結寄りな自分に気づいたので、承に移れるようになりたいと思った
- 竹林さんのYouTube見ます！
- 起承転結の役割分担
- イノベーション・トランスフォーメーションには、ぶれない軸が必要。何を目標・目的とするのか
- 明日からわくわくして仕事に取り組みたいと思いました
- 起承と転結が仲良くしたらイノベーションが起こる
- 「起承転結」を自分の中、自社の中でつなげていき、アイデアを形にする
- 「起承転結」が社内に共通言語になると、わかりあえて仕事も楽しくなるかも
- 起承と転結のコラボレーション
- ワクワクの気持ちを大切にしていきたいと思いました
- ぶれない軸を作ります
- トランスフォーメーションをしていく上で、周りとの共通言語を使う必要性がとても学びになりました
- バラエティに富んだ起承転結人材を探します
- 「転結」の私にとって、ここが「起承」の出島だと感じました。「起承」の部署で経験を積んでみたいと思いました
- “自身でできる承は何か” を考えるきっかけになりました。本を購入したので、理解を深めようと思います。ありがとうございました！
- 起承と転結の人材が混ざってイノベーションを実現できる

トランスフォーメーション研究会は、2025年度も活動いたします。

多くの方のお申込をお待ちしております！

